

薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成25年度改訂版)について

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会
副座長 太田 茂

現行のモデル・コアカリキュラム

- 日本薬学会 (平成14年8月)
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」
薬剤師、薬学研究者等を目指す学生が学んで欲しい内容を
整理した薬学専門教育のガイドライン。

1,145項目の目標

コアカリキュラムが7割。残り
3割はオリジナル (アドバンスト)
教育を行って、大学の特徴をだす。

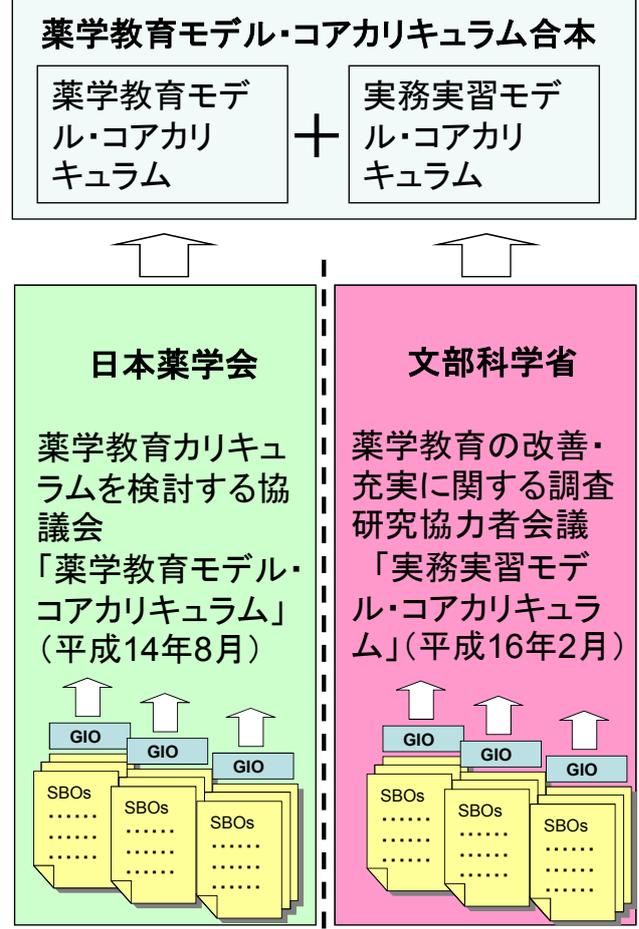
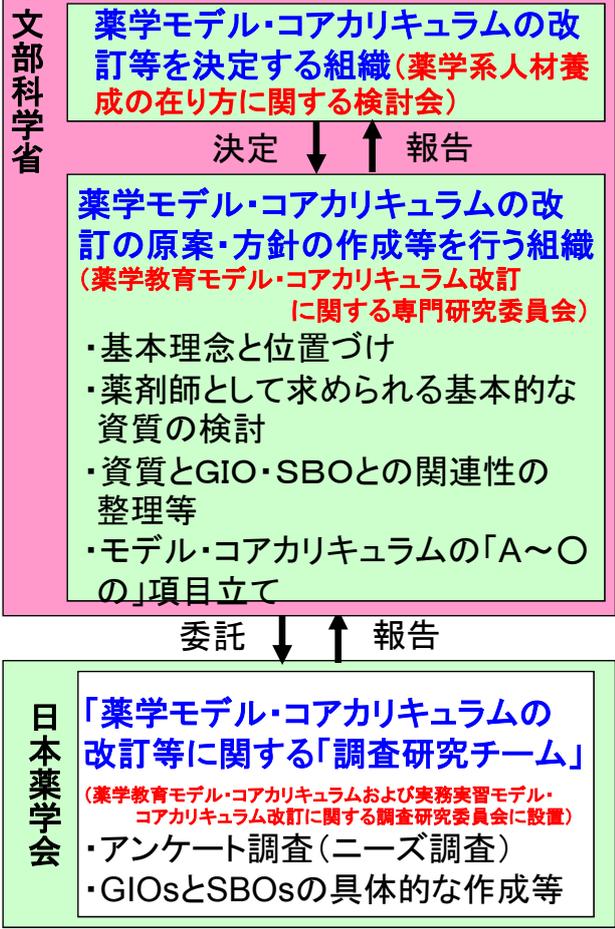
- 文部科学省(平成15年12月)
「事前学習・病院実習・薬局実習モデル・コアカリキュラム」の
目標 (計301項目) と方略を作成した。

事前学習
77 項目 1ヶ月

薬局実習
116 項目 11週
(2月半)

病院実習
108 項目 11週
(2月半)

合計：1145 + 301 = 1446の目標



薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の概要 (平成25年12月25日改訂)

- 従前のモデル・コアカリキュラム

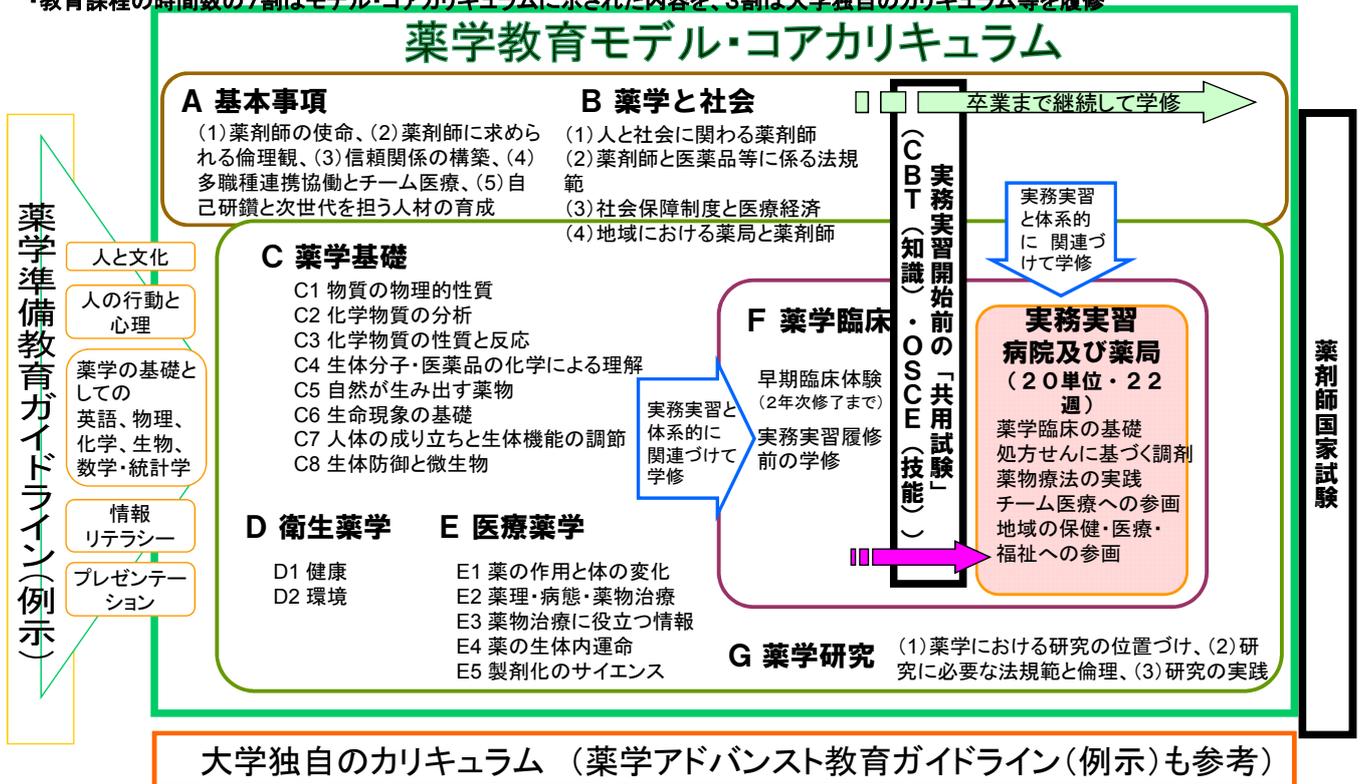
日本薬学会が「薬学教育モデル・コアカリキュラム」(H14.8)を作成し、文部科学省の協力者会議が「実務実習モデル・コアカリキュラム」(H15.12)を作成。
- 改訂の体制
 - ・文部科学省の「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」が改訂を決定。
 - ・検討会の審議を踏まえ「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会」が改訂の原案・方針等を作成。
 - ・具体的なモデル・コアカリキュラムの作成は日本薬学会に委託。 ※上記三者が連携して改訂作業を実施。
- 改訂の基本方針
 - ・6年制学部・学科の学士課程教育に特化した内容とする。
 - ・現在の「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」の二つを関連づけて一つのモデル・コアカリキュラムとして作成する。
 - ・薬剤師として求められる資質を明確にし、その資質を身につけるために学ぶという形に変更する。

平成27年度から各大学において改訂モデル・コアカリキュラムに基づく新たな教育を開始

- 改訂のポイント
 - ・医療人である「薬剤師として求められる基本的な資質」を設定。
 - ①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保健・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力
 - ・「基本的な資質」を前提とした学習成果基盤型教育(outcome-based education)に力を置き、「基本的な資質」を身につけるための一般目標(GIO)を設定し、GIOを達成するための到達目標(SBO)を明示。
 - 大項目：A基本事項、B薬学と社会、C薬学基礎、D衛生薬学、E医療薬学、F薬学臨床、G薬学研究
 - ・医療人としての薬剤師を養成するため「A基本事項」、「B薬学と社会」を充実。学生は6年間継続して学修。
 - ・「F薬学臨床」は今後の薬剤師業務の進歩を想定し大幅に見直し。他の大項目は「F薬学臨床」と体系的に関連づけて教育できるよう見直し。
 - ・教育課程の時間数の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラムを履修。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成25年12月改訂、27年度から実施)

- ・6年制薬学部のカリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインであり、学生が卒業までに身に付けておくべき必須の能力の到達目標を提示
- ・「薬剤師として求められる基本的な資質」を設定し、それを身につけるための一般目標、到達目標を設定する学習成果基盤型教育 (outcome-based education) に力点
- ・教育課程の時間数の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラム等を履修



大学独自のカリキュラム (薬学アドバンス教育ガイドライン(例示)も参考)

薬剤師として求められる基本的な資質(1)

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

(薬剤師としての心構え)

医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理感を有する。

(患者・生活者本位の視点)

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

(コミュニケーション能力)

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

(チーム医療への参画)

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

薬剤師として求められる基本的な資質(2)

(基礎的な科学力)

生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

(薬物療法における実践的能力)

薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

(地域の保健・医療における実践的能力)

地域の保健、医療、福祉、介護および行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

(研究能力)

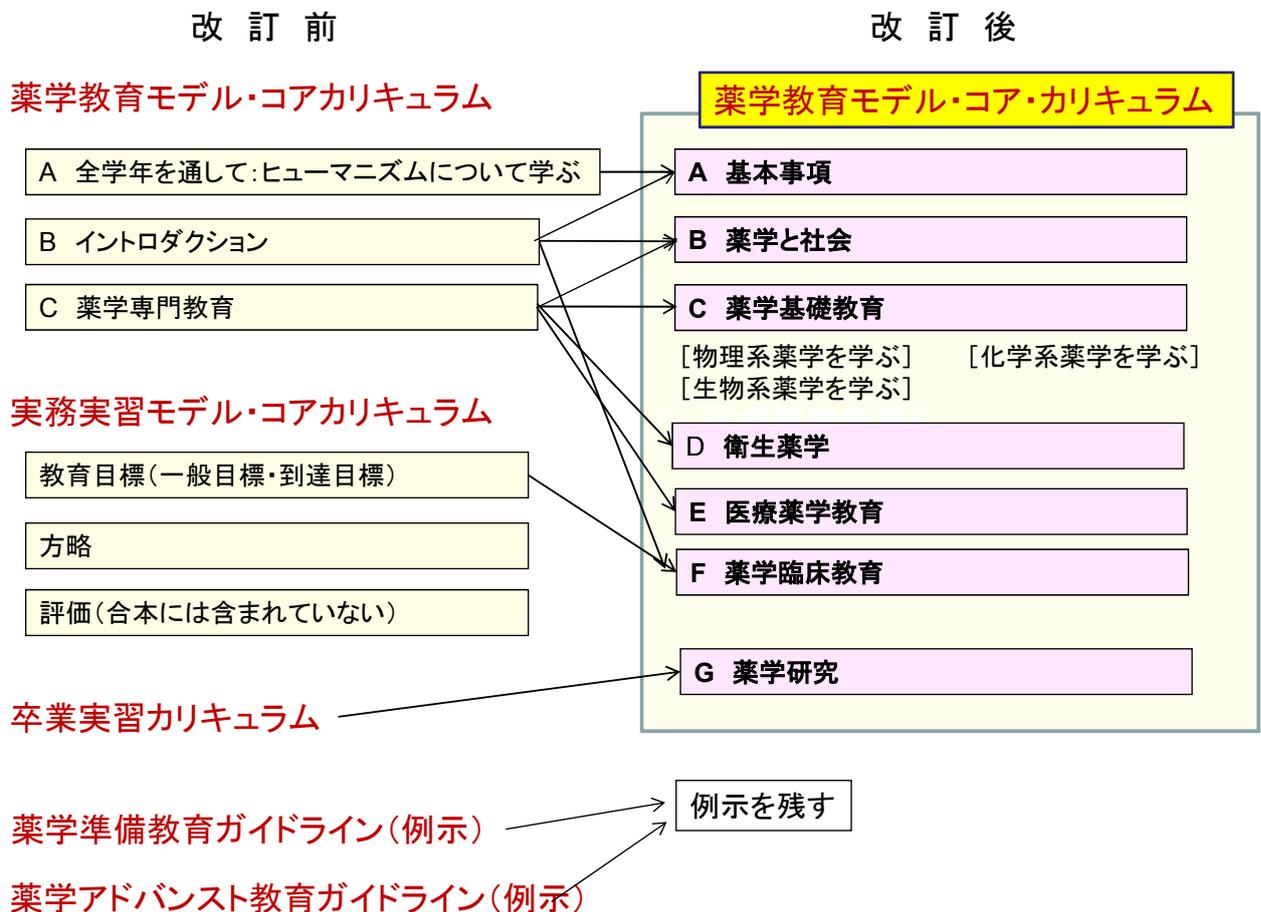
薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

(自己研鑽)

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

(教育能力)

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。



改訂版モデル・コアカリキュラムの特徴(1)

- A 基本事項
生命・医療倫理、チーム医療とコミュニケーション など
6年間を通して学ぶ
 - B 薬学と社会
薬剤師と医薬品等に係る法規範
社会保障制度と医療経済
6年間を通して学ぶ
 - C 薬学基礎
物理、化学、生物
 - D 衛生
健康、環境
-

改訂版モデル・コアカリキュラムの特徴(2)

- E 医療薬学
薬理と病態・薬物治療を融合
薬物治療に役立つ情報
薬の生体内運命
製剤化のサイエンス
- F 薬学臨床
薬局実習と病院実習を分けずに記載
方略を出来る限り排除
(ただし大学で事前に修得しておくべき項目は前)と表記
「代表的な疾患」を明示
- G 薬学研究
卒業研究について明文化

今後のスケジュール

